

令和3年度第2回出雲市スポーツ振興審議会 議事録

1. 開催日時 令和3年7月29日(木) 10:00~11:30

2. 開催場所 出雲市役所4階 共済会議室

3. 出席者

(委員)

会長	成相 善美	(出雲市体育協会会長)
副会長	安喰 公美	(レクリエーションスポーツ代表)
委員	天根 佑介	(島根県立出雲養護学校教諭)
	大森 正義	(出雲市スポーツ少年団本部長)
	久家 彰	(出雲市生涯学習委員)
	手銭 俊夫	(出雲市小学校体育連盟会長)
	野津 修一	(出雲市身障者福祉協会副会長)
	寺本 淳一	(出雲市議会スポーツ推進協議会会長)
	藤江 勲	(出雲中学校体育連盟会長)
	三島 武司	(出雲市教育委員会教育部長)
	矢田 栄子	(特定非営利活動法人出雲スポーツ振興21事務局長)
	山根 千恵美	(出雲市スポーツ推進委員)

(12名)

※欠席者3名(青木敏章委員、佐々木由紀子委員、水津則義委員)

(事務局)

三代 均	(市民文化部長)
矢田 和則	(文化スポーツ課長)
今岡 正樹	(文化スポーツ課課長補佐)
原 彩恵子	(文化スポーツ課スポーツ振興係副主任)
小村 修平	(文化スポーツ課スポーツ振興係主事)

(5名)

4. 会議内容

(1) 成相会長挨拶

オリンピックが始まり、日本の選手の活躍に喜んでいる。関係者の方々の努力で開催されよかったと思う。また、国民もコロナで自粛生活している中で、スポーツを見て元気になってもらう、そういった勢いが出てくるのがスポーツに関わっている者の嬉しいところだと思う。

また、ソフトボールも金メダル、おめでとうございます。皆で応援してきた結果、このような形になり、出雲市としてもよかったと思う。スポーツで皆を元気づけていけたらいいと思う。

コロナの感染者は、東京で3,000人を超えた。変異株は症状が出てこないため、感染が広がっていると聞いた。マスクをして、できることを最大限しながらスポーツを進めていけたらと思う。

市民の皆さんの健康につながるようなスポーツ振興計画になるよう、忌憚ない意見をいただき議事を進めたいので、よろしく願います。

(2) 議事

議事① 一般市民アンケート（年代別）の結果について

(成相会長)

一般市民アンケート（年代別）の結果について、文化スポーツ課から説明をお願いします。

(事務局：今岡補佐)

一般市民アンケート（年代別）（資料1）について説明

前回の審議会の中で、若年層の意見をもう少し取り入れたらどうかという意見があり、高校生を対象にしたワークショップを開いたらどうかという意見もあった。本日は欠席だが、高校の校長である水津委員に相談したところ、市内の高校から生徒を集めてのワークショップは難しいかもしれないが、水津委員が勤務する商業高校の生徒を集めて行うことは可能だと思うと話をいただいている。このことについても皆様に伺いたい。

(成相会長)

ただいま事務局から説明があつたが、何か意見、質問があるか。

(山根委員)

若い人たちのアンケート数が少ないということであつたが、男女比もわかるか。運動スポーツの実施状況について、10歳代1位サッカー 2位硬式野球と、完全に男性がほぼアンケートを出している。年齢の高い人とも接するが、スイミングスクールでも大人はほぼ女性で男性が少ない。コミュニティセンターがやっている運動教室もほぼ女性で、男性は20人に1人程度。スポーツクラブに行っても、ヨガやダンスをしているのもほぼ女性。回答してもらわないと出せないが、アンケート結果と実情が違っていると感じた。

アンケートが市ホームページに掲載されているが、総合型地域スポーツクラブの方と話したときに、コロナ禍でも気を付けながらいろいろな取組をしているが、アンケート結果が総合型地域スポーツクラブの実情だと思われると悲しいと言っていた。

アンケート結果は結果で数字でしか見えてこないが、結果と実情があつてないと感じた。

(矢田委員)

集まってスポーツを行うのは女性が多いが、例えば出雲ドームのトレーニングジムは年齢層を問わず圧倒的に男性が多い。ニーズの多様化があるかと思う。

健康増進課でも運動を行う高齢者の介護予防の事業がたくさんあり、そこから派生した自主グループがたくさんある。我々にスポーツの指導依頼されるのは、実はスポーツ関係者でなく、健康増進課の事業で発展した自分たちで活動されている方が多い。

体育の運動という時代があつたが、今、スポーツをとらえると、所管が違っても、体を動かして元気になろうというのは一緒。スポーツ推進委員がおられるように、

健康増進課には健康推進委員がおられ、同じような活動をされている。

このような現実をとらえて、そこで携わっている団体、委員、我々のようなもの、また競技としてやるなら体育協会、楽しみたいなら総合型地域スポーツクラブというような役割分担をしながら、いろいろな選択肢がある形を計画に表し、やっていったらどうかと思う。

(成相会長)

スポーツレクリエーションはどうか。

(安喰副会長)

女性が圧倒的に多い。

(成相会長)

学校はどうか。

(藤江委員)

学校も運動好きと運動嫌いが両極端。女子生徒にその傾向が強い。学校体育も、激しい運動というよりは、いかに体を動かすことを好きになってもらうかということを中心としている。ただ、野球は少し少ないかもしれないが、最近は女子もサッカーなどをする生徒はいる。

(成相会長)

矢田委員が言われるとおり、いろいろなスポーツのあり方があるので、アンケートの結果だけでなく、そういったことも大事にしたい。

議事② 現計画の事業実績による検証について

(成相会長)

続いて、現計画の事業実績による検証について文化スポーツ課から説明をお願いします。

(事務局：今岡補佐)

現計画の事業実績による検証（資料2）について説明

(安喰副会長)

幼児期のスポーツ活動の推進について、事業に参加する子どもを対象としたものであるか。地域の保育所、幼稚園などに専門家が入って事業をしているわけではないのか。事業に参加する子どもたちだけでは、底辺になかなか浸透していない。この事業を始めるに当たって意見を言わせてもらったことがあるが、事業の対象とならない子どもたちはどうなるのか。保育所、幼稚園といろいろあるので、専門家が言って一緒にスポーツする機会を設けられたらいいと言った覚えがあるが、それはされているか。

(事務局：今岡補佐)

この事業では実施していない。

(野津委員)

具体施策で「遊び」と「スポーツ」が分けられている。例えば鬼ごっこはどうか。子どもが一生懸命運動しているように見える鬼ごっこやけん玉はスポーツとして考えるのか。スポーツの定義付けはいかがか。

中高生になれば、ルールに基づいた行動なスポーツをすると思うが、未就学児は走り回るだけでもスポーツなのか。団体に入ってやっている人をスポーツとして考えるのか。

ここで考えるスポーツはどのようなものなのか、見えてこない。

(成相会長)

年代別に代わってくる。幼少期の場合は走り回ることも一つの運動。スポーツへの一つのきっかけになると思う。それはそれで含めるとよいと思うがいかがか。

(矢田委員)

先ほど話があった好きっ子事業について、事務局として担当させていただいている。実際の中身は、幼稚園の年代を対象に、体の成長に合わせて、必要な運動を考えた、遊び形式のもの、というのを念頭に置いてやっている。かけっこなどが必然的に鬼ごっこの的になる。またボールを投げるなど体操と陸上を子どもに対してやりやすく、ということ講師陣が行っている。スポーツを、遊びとスポーツを楽しくやる身体の活動ととらえるのか、又は昔に戻って競技スポーツととらえるのか、というところを野津委員がおっしゃったと思う。計画を立てるに当たっては、その論点、視点が、例えば小さい子向けにはこうだろうというのはすごく大事な視点だと思う。そこは検討を深め、共通認識を持つことが必要だと考える。

(久家委員)

スポーツの原点は遊びであるため、そこに一線を引くことは難しいと思う。楽しく体を動かせることがきっかけとなってスポーツに取り組んでいくこととなる。そこに一線を引いて区別することは難しいと思う。

(安喰副会長)

まさに遊びの中にスポーツやいろいろなことがあると、幼児期と関わってきたことがあり思っている。子どもは遊びが先行する。次に言いたいことは、事業の参加者だけを対象とするのではなく、専門家が幅広くいろいろなところに行って、底辺を広げて、もう少しいろいろな遊び、スポーツ系など、いろいろな年代に知ってほしい。そして、幼児期ならではの成長発達時にしておきたいことをしたらどうかと思う。よい事業をしていると思うが、特定の子どもだけになっているのではないかと考える。アンケートをとると、小さいころに運動をしていないから大きくなってからも運動嫌いということも出てきているということも推測するので、そうならないためにももう少し底辺を広げてたらいいいのではないかとということが言いたかった。

(手銭委員)

今の意見について、自分もそうかなと思う。というのは、例えば参加者が160人で経費が150万円くらいかかっている。100人前後で100万円かかると、参加した子は一人1万円くらいの支援を受けている。参加していない子は莫大で、市内に

たくさんいる。

私は多伎の小学校におり、夏休みに児童クラブをよく覗きに行く。定員は70人だが70人定員マックスで子どもたちがあふれている。することがない狭い施設なので、スポーツ推進委員が来られていろいろな運動や遊びを行っている。定期的に夏休みに時間を取ってやっておられるような活動、児童クラブなどに指導員が行く、あるいは保育園、幼稚園に全箇所行く、そちらに同じ額を当てはめれば、160人が1,600人くらいの運動支援につながるのではないか。費用対効果を考えると、対象者が少なくて額が大きいというのを数字から見た。希望者あるいは参加者のみでなく、幅広く全体にいきわたるような推進策が無いかなと思う。

(山根委員)

好きっ子事業にも関わっており、幼稚園や保育所にも月に1回程度お邪魔している。そこにも補助金が出ているようだ。学童にも行くが、そちらも補助金が出ているよう。どこから補助金が出ているかはわからないが、幼稚園や保育所に行くと、やっているうちに皆が動けるようになるので、すごく大事なことであると思う。

もう一つ、これをスポーツというのかどうかということだが、表現をスポーツ活動とするのか、もう少し違う表現にするのかということところは考える必要があると思う。

(成相会長)

幼少期の話があったが、全体を通してほかに何か意見があるか。

(矢田委員)

学校の関係のスポーツの指導者について、どこで情報を共有していいかわからないのでここで話をするが、スポーツ少年団や、体育協会のスポーツの指導者に対する資格取得について、変更がなされている。スポーツ少年団の指導者も、今まで1回講習を受けたらそれっきりで、それ以降は特に登録すればいいくらいの話だった。これが制度改正され、ちゃんと講習を受けて4年に1回の更新制になり、指導者の制度も変わりつつある。国のレベルで、学校の部活動の指導のレベルにということだと思うが、学校なので、手を挙げた人が誰でも入れるような体制ではいけないと思う。昔あったリーダーバンクのような、きちんと資格を取った方を整理して、学校が求める種目の指導者や、サポートする人がちゃんとした形で整わないと、子どもたちを任せられないと思う。

ただ、スポーツ指導者の国のやっている制度が本当に正しいかどうかというのも、出雲の子どもたちを安心して任せられるように、出雲市として考えるべきであると思う。ただし、責任問題も発生するので、そうそう簡単にするべきではないと思っている。ルールを作ってやらないといけないと思う。今は学校も一本釣りでやっておられると話を伺った。よい指導者に巡り合ってほしいと思うので、そこは詰められたら思う。

(安喰副会長)

子どもたちの前に立つ人は、責任をもって、いろいろな経験を積んだ方でないと子どもに失礼にあたると思う。資格の更新もあるし、フォークダンスのように、上級にむかって試験を受けるというのも最近はある。自己勉強しながら子どもの前に立つということは最低限必要なことだと思う。今一本釣り聞いてそんなことがあ

ったのかと思った。今回リーダーバンクの見直しなどがあるなら、その辺の基礎的なことは踏まえたうえで、リーダーバンクの作成をしてほしいと思う。

(藤江委員)

中学校の現状としては、本校は規模が大きく、全部を合わせると 20 近くの部活動があるが、教員の中でも専門性の高い指導者もいれば、そうでなく、例えば体操競技などは専門性が要求されるが、経験者がいないので、教員自身も学びながら指導している。

将来的に言えば、全国的には中学校の部活動などは、教員の働き方改革を含めて考えると、もちろん学校教育なので、教員が生徒を伸ばしていくという視点も大事だと思う。それと、地域の指導者の方の専門性を借りながらともにやっていくというスタイルが無いと、教員にすべてを委ねるといことになると、生徒の専門性を伸ばしたいというニーズにこたえることは難しい状況である。

今話に出ているように、丸投げで、指導者の方にすべてを預けるといことはできないので、教員は帯同しながら、専門的なところを活かしていただくということが、今後考えていくところでないかと思う。現状としては、学校側はそのように思っているが、地域の方にやりましょうという方がどこにおられるかわからず、実際問題、平日の 4 時からとか、土日に来ていただける方がどれくらいおられるのか、現実難しいところもあるため、現実路線で行けば教員 OB の方とかが多いかなとは思う。実際苦戦しているが、その中で教員が工夫して指導しているのが実態。

(成相会長)

これからぐっと伸びてもらわないといけないところに専門的な指導者が少ないというのはもったいないところである。

他に何かあるか。

(矢田委員)

2030 年の国民スポーツ大会に向けて、競技スポーツの競技力向上も今からであれば当然外せないと思う。そこで頑張りたいという市民もたくさんいらっしゃると思う。自由に楽しく仲良くと同時に、競技スポーツが無いと審判もおられなくなるし、試合ができなくなるということになるので、競技スポーツの振興もすごく重要なことだと思う。約 9 年後の 2030 年に向けての選手の育成となると、小学生、中学生の選手の発掘、強化は今から取り組んでいかないといけない大事な項目だと思う。

(成相会長)

専門的にやっておられる方が学校の生徒を指導するなどあると思うが、地域におられる方が中心になるか。

(大森委員)

スポーツ少年団に対して情報が来ていることは来ているが、実際には出雲市ではそのような動きはない。打ち合わせをして前に進めていかなければならないと思っている。スポーツ少年団も出雲市体育協会の一員なので、ぜひいろいろとお願いできればと思っている。今いろいろと御意見聞いているが、スポーツ少年団が市と一緒にあって取り組んでいるスポーツ振興事業であるが、各地域のコミュニティセン

ターが主催された行事もたくさんあり、たくさん子どもたちが参加しているが、呼びかけても参加される子どもは同じで、底辺の拡大にはつながっていないような気がする。親子で参加できる行事だと比較的参加が多いが、子どもだけというのは参加ができない行事もある。保護者の土曜日の休みが少なくなってきたり、いろいろなスポーツの大会の運営等で保護者の方が携わられることがあるが、単位団ではそういった大変なところが出てきていると聞いている。保護者が仕事で家にいない中、子どもを引っ張り出すとなると主催者側にも責任が出てくるが、出される以上は保護者の責任でということもある。その辺で底辺拡大というのは悩みがある。

スポーツ審議会とは違うかもしれないが、自治協会の加入率が減少しているのが気になっている。自治協会に入っている子どもたちが対象の行事、自治協会に入っていない子どもたちは出られないものとはっきりある。だけど同じ学校に通っていて、家に帰れば一緒に遊んでいる子どもたちである。その辺のところは気になっている。行政にもう少し力を入れていただけるとよいと思う。私の住んでいるところ大津町だが、自治協会にいろいろお願いしており、チラシを作成して配られるが、配るのは自治協会に入っているご家庭だけで、それでは意味がない。どんどん住宅が建つが、全く自治協会に加入されないという現状がある。その辺も出雲市でやっていると、人口は増えてきているが、自治協会の加入率が悪いので、運動会、地区民体育大会などもできない状態になっている。令和2年度はコロナの感染拡大のために中止になっている地域も多いと思うが、自治協会への加入率の減少もあると思う。その辺ももう少し入れて進めていかなければならないのではないかという思いがある。それは幼少期や小学校の子どもたちだけでなく、高齢者の方のスポーツや福祉などの問題も出てくると思う。スポーツが生活の中に入ってきているとは思いますが、そういう仕掛けもなければならぬと思っている。

（成相会長）

私も家を建て直すときにアパートに住んでいた。うちの町内には子どもがいない。アパートに住んでいるときは朝になると子どもたちの声で目が覚めた。こんなに子どもたちがたくさんいるのに、四絡の運動会では選手が足りないと言っている。地域の中の町内では選手がいない、ところが自治協会に入っていないアパートには若い世代がたくさん住んでいて、いくらでも出られるじゃないかというような人がたくさんいる。そこに声がかかっていないというのが現状。おっしゃるとおりそういった部分もあると思った。そこをクリアできれば、地域のスポーツも変わってくるし、全体的に大きく変わってくるのでは。

他に何かあるか。

（天根委員）

私は学校教育だが、特別支援教育であるため、部活動など普通学校とは違うと思うが、現場の中学校高校の先生方は、普段の公務もありながら、部活動をやるというのは想像できないくらい激務だと思う。現場の大変さはわからないところであるため、一概には言えないが、外部の方が部活動を見るということは利害関係が一致していると思っていたが、皆さんのおっしゃるように、どこに人材がいるかわからない、どこからお願いしたらいいのかかわからないというのはなかなか難しいところではないかと思う。もしそういうことをやりたい人がいても、いくらお金が出るのかとか、自分の仕事はあるが、休みを取らなければならないのか、休んだとして、休んだ補てんとしていくら出るのかとか、自分の会社の年休を使わなくてもいいのか

など、その整理が難しいのではないかと思います。それで生活ができるくらいの給料をとということなら別だが、そうでないにしても、お金を受け取るとなると、責任も発生するので、ボランティアの中でそれだけやっていくのは難しいと思う。お金を払うので、ここまでお願いしますというのは学校としても言えると思う。専門性があり競技を教えられるが、教育者ではないため、人間性、責任感、ルールというところまでその方をお願いするというのはどうか。スポーツに取り組まれる力ではあるが、教育者ではないと思うので、学校側は専門性のところだけお願いしますという設定ができれば、より手が上がる数が増えるのではないかと予想する。このような条件提示をすれば窓口が広がり、手が挙がりやすくなるかもしれないが、そのときに皆さんがおっしゃられるようなライセンスなどこういう資格がある方をお願いすることがあれば、誰でもというわけではなく、しっかりとした目でみていただける環境ができるのではないかと思います。お金をどこが出すのかとか、どういうふうに出すのかとか、すごく現実的で、お金じゃないという部分もあるかもしれないが、何か一つ交渉できる材料があれば、もう少し変わる部分もあるのではないかと思います。

(成相会長)

現状の話を聞いて、スポーツ議員連盟としていかがか。

(寺本委員)

スポーツ振興については、私は高松地区にいるが、実際に高松はそれでもまだスポーツが盛んな地域で、サッカー、野球、バスケット、バドミントン、バレーボール、いろいろなスポ少の団体がまだまだ頑張っておられる。話に出たように自治協会への加入率が非常に減少し、半分を切っている状況である。スポーツ少年団については、加入しているしていない関係なしにスポーツをされている状況だが、高松の体協の事業となると、加入している子にしか声がかからないというのが現状。中学校のスポーツ少年団と高松体協という2つの団体の中で、子どもたちの割合が大きく変わってきているというのが高松の現状だと思っている。加入率を上げるとということと指導者に対してのことについては、学校の働き方改革もあり、地元の子どもたちに教えていけるような指導者を増やしていかなければいけないということは重要だと思っているが、そのためにはハードルが高い部分もある。ハードルを下げるという意味ではなく、ある程度高い専門知識を持っている指導者をどのように育てるかということが今後の課題だと思っている。加入率と指導者の確保、子どもたちがもっとスポーツに参加してもらえるような環境づくりというのも、議会としても、しっかりと協議してなんとか少しでも競技人口を増やしていけるよう担当課と協議しながら進めていきたいと思う。

(成相会長)

教育委員会としてはどうか。

(三島委員)

教育委員会としては、学校における体育と部活動があり、部活動を語る際に、活動の目的を少し考えないといけないと思っている。確かに強い選手を育てるということももしかしたら部活動の役割の一つかもしれないが、部活動も学校教育の一つなので何を目的とするのか。あまり極端なことは言いたくないが、皆で仲良く、礼

儀を身に付ける中で、生涯続けていけるようなスポーツを見つけ、人生を豊かにする、これが義務教育、特に公立学校における部活動のあり方なのかなと思っていたが、そうとばかりは言っていられないため、国民スポーツ大会に向けてなど、全国と勝負できるような選手の育成というのも役割としてはあるが、地域指導者や部活動指導者について、どちらに軸足を置いていくのかといったところをこれからは学校の現場の皆さんとお話しする中で、選手を強化することには力量があるが、他の指導はそこまでという方や、性格はすごくいいが、技術指導はそこまでという方もおられるのではないかと思う。完璧な方だけが地域におられるわけではないため、その辺りを、我々もこのことについては始めたばかりなので、現場の皆さんと話をしながら、一部の子どもたちだけではなく、皆がこの部活に入って良かったと思える形に持っていきたいと思っている。

（成相会長）

たくさんの子どもたちがスポーツに関心を持って体を動かす。その中でルールや礼儀などいろいろなことを学びながら、上を目指したいという子どもたちが出てくることを願ってやっていくことが大事だと思う。国民スポーツ大会まで9年であり、時間があるようであつという間であるため、そのところも考えながら、スポーツ振興計画にも入れていかなければならないのかなと思う。

他に何かあるか。

（野津委員）

くにびきマラソンのことについて、昔から車いすの参加はない。警察がいけないと言ったとうわさで聞いたことがあるが、実際車いすの参加は難しいか。

（事務局：今岡補佐）

幅の狭いところもあり、今のコースでは難しいということで開催していないというのが現状。

（野津委員）

何年か前に出雲ドームの中でどうしても参加したいという方がおられ、開催したことがある。レーサーでなく、生活用の車いすだが、これも走れないところがあるということか。

（事務局：今岡補佐）

車いすの種類というよりは、コースの幅員などが理由。

（野津委員）

昔あった大きい大会など、全国的に車いすの参加がなくなっていつている。何年か前まではレーサーを使っておられた方も何人かおられた。学校関係者でも車いすの方がおられるのではないか。1.5 kmだけでも参加できれば、普通の車いすでいいので、競争でなく、誰もと動ける、そこに喜びを感じてもらえる気がしている。特定の種目で悪いが、検討してもらえたらと思う。

（成相会長）

他に意見がないようなので、本日いろいろ意見をいただいたが、また何か御意見

があれば、事務局へ電話やメール、FAX をお願いする。
それでは事務局へお返しする。

(事務局：今岡補佐)

冒頭で行ったが、高校生を対象としたワークショップについて、商業高校へ相談し、実施する方向で検討させていただいてよろしいか。

(全委員)

一了承一

(3) その他

(事務局：今岡補佐)

貴重な意見をありがとうございました。

次回の審議会の日程について、8月末までに開催したいと思う。8月2日までに、日程調整票の御提出をお願いしたい。

以上で第2回出雲市スポーツ振興審議会を終了する。

本日はありがとうございました。